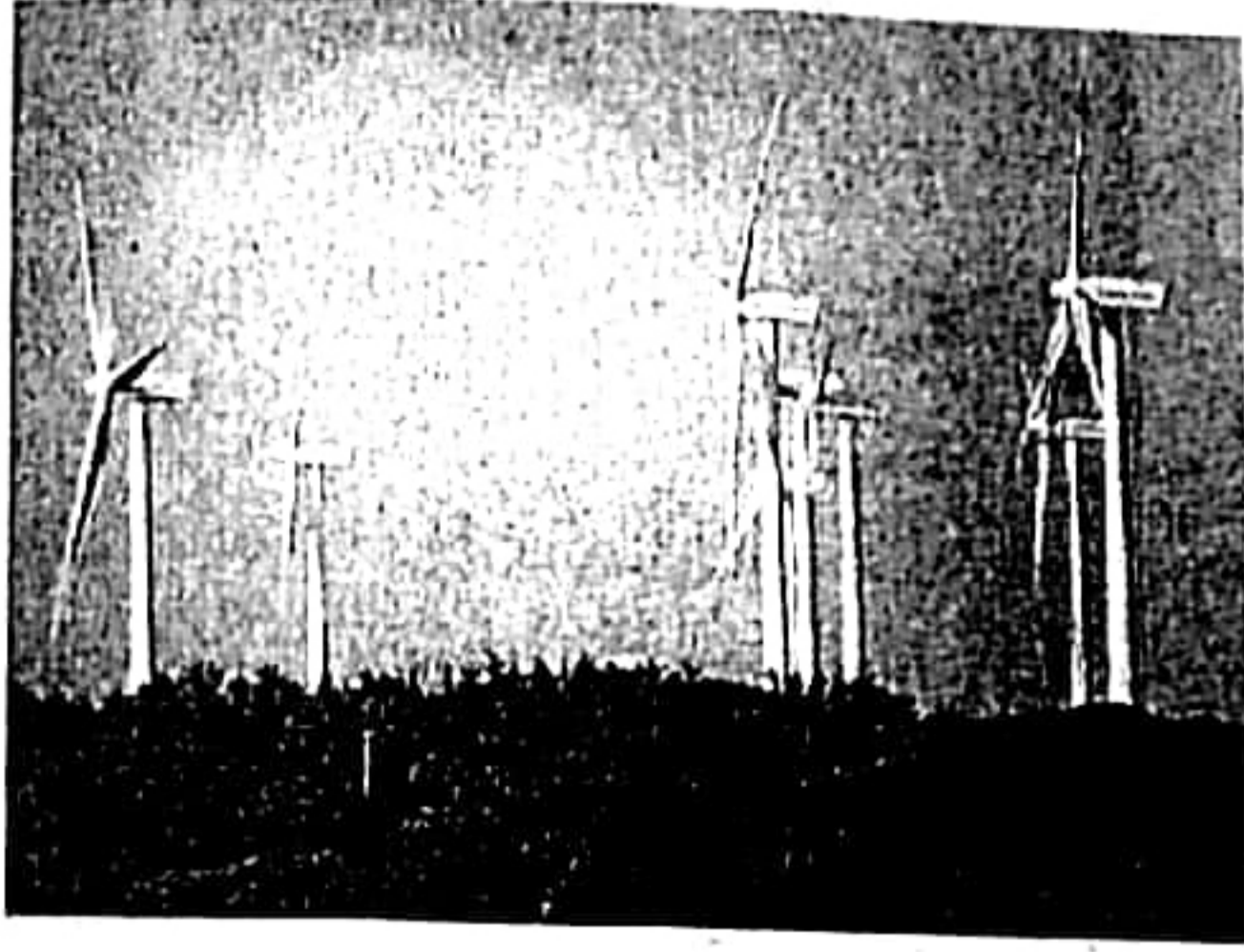


# 会川鉄工、風力タワー新工場

## 大型品、いわきで年100基

【いわき】会川鉄工（福島県いわき市、会川文雄社長、0246・32・3811）は、最大出力3000キロワットの風力発電向けタワーの量産に乗り出す。四倉中核工業団地（同市）内の第2工場に隣接した2万平方メートルの土地を取得し、延べ床面積6600平方メートルの新工場を建設、2019年に完成する。投資額は非公表。欧州メーカーから特殊加工機を導入し、年間100基の生産体制を整える。



国内で新規立地が見込まれる風力発電（イメージ）

## 福島の大規模発電狙う

既に大手風車メーカーから3000キロワットのタワー数十基の受注が内定している。会川鉄工は大型風車のタワー製造で、核となる厚板鋼材の曲げ、ピス留め技術などを確立。風車メーカーから見積もりも受けている。大型風車向けタワーの量産体制を整えることで、今後、陸上・洋上で風力発電の新規立地が本格化していく日本で、同事業の国産化に力を

入れる。

新工場の稼働に合わせ現在60人の人員を100人へ増強する。また風力発電機の周辺部品やアンカー、ボルトなどの受注も目指す。福島県では数十万キロワットの陸上風車を新設する

プロジェクトが動いており、同社ではこれらの受注もターゲットに体制強化を進める。

同社は日本で初めて風車のタワー製造に乗り出し、2100平方メートルの専用工場に欧州から輸入した特殊な溶接機器など風車専用の加工機を導入し、3000キロワット以下のタワーを建造している。今後は陸

上で主力となる3000キロワットのタワー建設に乗り出すことにした。